

### 【今日の説教から】

先週の箇所には、このようなものがありました「主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。…子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか」

それに続けてこのように書かれています。「それによって、わたしたちが真理から出たものであることがわかる。そして、神のみまえに心を安んじていよう。なぜなら、たといわたしたちの心に責められるようなことがあっても、神はわたしたちの心よりも大いなるかたであって、すべてをご存じだからである。」

神様の愛をいかに深く知り、その愛を心の糧として生き方の指針として心に深く宿しているか。いかにその主の愛を実践しているか。それによって私たちが真理に属しているかが分かる。たとえ心に葛藤があり、これでいいのだろうかという悩みがあったとしても、心に罪責感によるとがめを感じたとしても、その愛に生きることによって私たちは心を安んじることが出来、「神の戒めを守り、みこころにかなうことを、行っている」という心からの告白は、私たちが完全にし、願うものを受ける確信をもたらすと書いてあります。それほどに、主イエスを信じ、その愛に生きるということが核心であることを聖書は語るのです。

皆様おはようございます。

7月に入りました。このところ梅雨明けして夏本番のような30度越えの日々でしたが、蒸し暑い日々、ぜひとも熱中症にかからずお元気にお過ごしください。

先週の聖書の箇所には、このようがありました。そして今日の聖書の言葉につながっています。

3:16 主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。

3:14 わたしたちは、兄弟を愛しているので、死からいのちへ移ってきたことを、知っている。愛さない者は、死のうちにとどまっている。

3:11 わたしたちは互に愛し合うべきである。これが、あなたがたの初めから聞いていたおとずれである。

3:18 子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。

3:19 それによって、わたしたちが真理から出たものであることがわかる。そして、神のみ

まえに心を安んじていよう。

私たちの信仰が、生活が、愛が、どれだけイエス・キリストにあって現わされた神様の愛によって今に導かれていることでしょうか。

イエス様は、どんなにか私たちを死から命へと導くために、できる限りのすべてを成し遂げ、その命を犠牲にしてまで私たちを光の中へと導き出してくださったのでしょうか。

イエス様は私たちに救いをなしてくださいましたが、救いは贖いによって終わっているわけではありません。救いは、私たちが、救われ、神の子とされ、きよめられ、力づけられて、イエス様が業を行われたように、それと同じように私たちもイエス様の業をなすことによって成就します。

3:16 主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。

命を捨ててくださり、救ってくださり、それでめでたし、めでたしではありますが、私たちが生きて生まれ変わって、もう一度神様によって生み出されたのならば、その新しく生まれたいのちの中で、生まれた赤ん坊が成人として成長していくように、私たちもクリスチャンとして生まれたのであれば、育っていくというクリスチャンとしての生涯の次の段階があるはずです。

1 ペテロ 2:1 だから、あらゆる悪意、あらゆる偽り、偽善、そねみ、いっさいの悪口を捨てて、

2:2 今生れたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救に入るようになるためである。

2:3 あなたがたは、主が恵み深いかたであることを、すでに味わい知ったはずである。

1 コリント 3:1 兄弟たちよ。わたしはあなたがたには、霊の人に対するように話すことができず、むしろ、肉に属する者、すなわち、キリストにある幼な子に話すように話した。

3:2 あなたがたに乳を飲ませて、堅い食物は与えなかった。食べる力が、まだあなたがたになかったからである。今になってもその力がない。

3:3 あなたがたはまだ、肉の人だからである。あなたがたの間に、ねたみや争いがあるのは、あなたがたが肉の人であって、普通の人間のように歩いているためではないか。

ヘブル 5:12 あなたがたは、久しい以前からすでに教師となっているはずなのに、もう一度神の言の初歩を、人から手ほどきしてもらわねばならない始末である。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要としている。

5:13 すべて乳を飲んでいる者は、幼な子なのだから、義の言葉を味わうことができない。

5:14 しかし、堅い食物は、善悪を見わける感覚を実際に働かせて訓練された成人の取るべきものである。

6:1 そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教の初歩をあとにして、完成を目ざして進もうではないか。今さら、死んだ行いの悔改めと神への信仰、

6:2 洗いごとについての教と按手、死人の復活と永遠のさばき、などの基本の教をくりかえし学ぶことをやめようではないか。

6:3 神の許しを得て、そうすることにしよう。

6:4 いったん、光を受けて天よりの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となり、

6:5 また、神の良きみ言葉と、きたるべき世の力とを味わった者たちが、

6:6 そののち墮落した場合には、またもや神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにするわけであるから、ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である。

キリスト教とは、イエスキリストを知り、イエスキリストに生きる宗教です。生ける神様との人格的關係から発展する生き生きた関係につながり合われて進む、神様と共にある生き方のことです。

3:18 子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。

3:19 それによって、わたしたちが真理から出たものであることがわかる。そして、神のみまえに心を安んじていよう。

主イエス様は、言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛してくださいました。

ヨハネ 15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

15:6 人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げすてられて枯れる。人々

はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。

15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

15:8 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

15:10 もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおるのと同じである。

15:11 わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

15:14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

ヨハネ 8:31 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

3:16 主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。

3:14 わたしたちは、兄弟を愛しているので、死からいのちへ移ってきたことを、知っている。愛さない者は、死のうちにとどまっている。

3:11 わたしたちは互に愛し合うべきである。これが、あなたがたの初めから聞いていたおとずれである。

3:18 子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。

3:19 それによって、わたしたちが真理から出たものであることがわかる。そして、神のみまえに心を安んじていよう。

もしも私たちがイエス様の言葉にとどまり、イエス様のおっしゃることを愛してそれを守り、実践するのならば、私たちは真理の中にあり、神のいのちの中にあり、真理は私たちを自由にします。

「神のみまえに心を安んじていよう」。

私たちの心の中には、それでもなお葛藤があります。正しく生きているのかどうかとの絶えざる心の葛藤があります。

3:20 なぜなら、たといわたしたちの心に責められるようなことがあっても、神はわたしたちの心よりも大いなるかたであって、すべてをご存じだからである。

私たちの心の中には責められるようなことがあるのです。私たちには輝かしいイエス様という模範がありますが、その模範である理想と、私たちの現実との間には大きな隔たりがあり、私たちはしばしば心に罪責感を覚え、苦しむのです。19節からの3節には「心」という言葉が4回繰り返し登場します。私たちはイエス様の愛を知らされてもなお、「言葉や口先だけで愛する」者であり、「行いと真実とをもって愛し合」うことが難しいのです。ですから救われてある私たちの心のうちにはいつもイエス様からほど遠いという心の呵責に苛まれるのです。

「わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。それによって、わたしたちが真理から出たものであることがわかる。そして、神のみまえに心を安んじていよう。」・・・しかし、私たちの愛がもろく弱いものであり、イエス様の輝かしい模範からほど遠い今、私たちは本当に真理のうちにいるのだろうか、との心の責め苦が私たちを襲うのです。

3:20 なぜなら、たといわたしたちの心に責められるようなことがあっても、神はわたしたちの心よりも大いなるかたであって、すべてをご存じだからである。

しかし愛には恐れがありません。(1ヨハネ 4:18)

たといわたしたちの心に責められるようなことがあっても、神はわたしたちの心よりも大いなるかたであって、すべてをご存じだからです。

神様はそのような、私たちの忸怩たる思いを、心責められる葛藤の中からイエス様を遠くに仰ぎ見、近寄せてくださいと悲痛にも祈る、しかしまたも弱さの中で波に翻弄されるがごとくに、近づいたり遠のいたりする私たちの叫びと祈りとを見ておられます。そして神様は全てをご存じで、大きな心で私たちを見ていてくださいます。そのあなたのすべての罪科のために私は御子を十字架につけ、あなたのすべての罪のための贖いとしたと神様は私たちに語り掛けてくださるのです。

3:21 愛する者たちよ。もし心に責められるようなことがなければ、わたしたちは神に対して確信を持つことができる。

3:22 そして、願い求めるものは、なんでもいただけるのである。それは、わたしたちが神の戒めを守り、みこころにかなうことを、行っているからである。

そのように神様が私たちに語り掛けてくださるのであれば、私たちは全ての心の責め苦から解放されるのではないのでしょうか。そしてもしもそのようにして神様が確かに心の責め苦を神様の大きな心で取り除いてくださるのならば、もしそのようにして、心に責められるようなことがなければ、私たちは神様に対して、神様の前に、大胆に確信を持つことが出来るのです。広かれた、率直さをもって、朗らかに、軽やかに、開けっぴろげに、大胆に自信を持つことが出来るのです。

私たちの問題は、神様がそこまで徹底的に私たちのことを知り尽くしてなお赦していらっしやるということを信じきれないことです。そして私たちはいつまでたっても自分自身を信仰の出来損ないのように卑下して、神様のみもとへと走り寄ることもできず、うじうじして、心の責め苦の中に居続けるのです。これが私たちの問題です。

私たちが突き抜けてイエス様を愛し、その救いを信じ、見せられ、敬い、憧れ、従うとき、そのイエス様の教えを実践するとき、私たちは新たな者とされているのです。そして私たちと共に神様がいてくださることを知り、私たちが願うものは何でも求めなさい、かなえてあげようと語られる神様のお声を聴くのです。私たちは信じて応答して、御心になつた祈りをささげ、それがかなえられることによって神様の御業が現わされ、御名があがめられるのです。私たちの祈り求めはそのように主の御業を引き出す大切な、なくてはならないものなのです。

Ⅱ歴代誌 16:9 主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心のご自分と全く一つに

なっている人々に御力を現してくださるのです。

4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。

4:24 神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」。

私たちは、神様が私たちの願うところのものを皆叶えてくださることを信じて祈りましょう。

ヨハネ 14:12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

14:13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14:14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。

14:16 わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

14:17 それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。

14:18 わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。

マルコ 11:22 イエスは答えて言われた、「神を信じなさい。

11:23 よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないで信じるなら、そのとおりに成るであろう。

11:24 そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。

1 ヨハネ 5:14 わたしたちが神に対していただいている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞きいれて下さるということである。

3:23 その戒めというのは、神の子イエス・キリストの御名を信じ、わたしたちに命じられたように、互に愛し合うべきことである。

3:24 神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜った御霊によって知るのである。

ローマ 13:8 互に愛し合うことの外は、何人にも借りがあってはならない。人を愛する者は、律法を全うするのである。

神様のお言いつけを守ることこそが、イエス様のお言葉に従うことこそが私たちにとっての道であり、真理であり、命です。その人は、神と共におり、神様もその人のうちにおられます。そしてそのことは、私たちのうちに住んでおられる聖霊様によってわかるのです。

3:13 そしてモーセが、消え去っていくものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、顔におおいをかけたようなことはしない。

3:14 実際、彼らの思いは鈍くなっていた。今日に至るまで、彼らが古い契約を朗読する場合、その同じおおいが取り去られないままで残っている。それは、キリストにあってはじめて取り除かれるのである。

3:15 今日に至るもなお、モーセの書が朗読されるたびに、おおいが彼らの心にかかっている。

3:16 しかし主に向く時には、そのおおいは取り除かれる。

3:17 主は霊である。そして、主の霊のあるところには、自由がある。

3:18 わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。

私たちの顔には覆いがかけられてはいません。主は隔ての壁を打ち壊してくださいました。そして私たちはイエス様を見、イエス様に近づけられていくのです。これは霊なる主の働きです。私たちはますます主の赦しによって力づけられ、心に責められることなく、「神の子イエス・キリストの御名を信じ」、「わたしたちに命じられたように、互に愛し合う」という、このいのちの道に進み続けたいと願うのです。

エペソ 2:13 ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近いものとなったのである。

2:14 キリストはわたしたちの平和であって、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き、ご自分の肉によって、

2:15 数々の規定から成っている戒めの律法を廃棄したのである。それは、彼にあって、二



つのものをひとりの新しい人に造りかえて平和をきたらせ、

2:16 十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまったのである。

エペソ 4:13 わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

4:14 こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、

4:15 愛にあつて真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちにイエス様の愛をお示しください、赦し、励まし、強め、成長させてください、私たち自身の弱さのゆえに心が責められることがあっても、私たちが愛の中に導き入れ、心の責めを取り除き、心を安心させ、神のみ前に確信を与え、願うことを何でもかなえてください、本当にありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン